

【学校教育目標】 「自分とみんなのために 心を尽くし、学びを深め、ともに動く 大小っ子の育成」
【目指す児童像】 「気づく子 学ぶ子 元気な子」

玖城のほとり



大村市立大村小学校
令和8年度学校だより
第7号
令和8年7月17日発行
文責：校長 堺 邦寿

★ 一学期のご支援・ご協力に感謝申し上げます ★

本日、無事に一学期の終業式を迎えることができました。これもひとえに、ご支援・ご協力いただきました保護者の皆様、地域の皆様のおかげと心から感謝申し上げます。1学期は、1年生は67日、2～6年生は69日ありました。この間には、歓迎遠足、運動会、水泳学習など、多くの行事があり、子どもたちは、その中でそれぞれに大きく成長しました。

明日からは、45日間の夏休みに入ります。一人一人が健康で安全な生活が送れることを願っています。子どもたちには、家庭や地域の中で、夏休みだからこそできる体験を通して、さらに心や体を鍛え、自らを成長させてほしいと思っています。宿題も、自主的な取組となるよう、各学年で指導しています。御家庭におかれましても、励ましの声かけをよろしくお願い申し上げます。2学期始業式の日（9月1日）に、元気な大小っ子と会えることを楽しみにしています。ここで、今日の終業式の際の「児童代表の言葉」を紹介します。



一学期をふりかえって

二年生 代表

わたしが一学期にがんばったことは、二つあります。

一つめは、ここの音読です。声の大きさに気をつけて、まい日読みました。すると、はっぴょうするときに、つちよくで前に出て話するときも、大きな声で話せるようになりました。

二つめは、トイレのスリッパをならべることです。トイレに行ったときに、じぶんのスリッパだけじゃなくほかのスリッパもならべるようになりました。きゅうしよくのとき、ほうそうでこじゅう丸と言われたら、とてもうれしかったです。これからもうづけていこうと思います。

二学期にがんばりたいことは、かん字です。新しくなっつかん字をおぼえて、テストで百点をとりたいたです。そのために、かん字のれんしゅうをていねいに書くと思います。

一学期にがんばったこと

四年生 代表

私が一学期にがんばった学習は、二つあります。

一つ目は、国語の漢字ノートです。書き順や字のバランスをいしきて書きました。パーフェクトがもらえるように大切なところは赤線を引くなどしました。

二つ目は、社会の都道府県名をおぼえる事です。都道府県名クイズやユーチューブの都道府県の歌などを歌って覚えめました。

次に、一学期がんばった行事は、運動会です。私は、四年生になったら、おうえんだんになったので、おうえんだんになれてうれしかったです。昼休みやそうじの時間、言葉や動きの練習をしました。六年生は、みんながおぼえやすいように考えたおうえんのうたをつくってくれて、すごいなと思いました。五年生になったら係の仕事や下級生のお手伝いがらえるけど、今の六年生みたにかっこいい六年生になりたいなと思います。

そして、私が夏休みにがんばりたい事は、早ね早起きです。生活ががんばりカードでは、早ね早起きがありできていなかったことと、ときどき夜ふかしをすることがありました。夏休み中は、きそく正しい生活を送れるようにしたいです。

さい後に、二学期にがんばりたい事は、二つあります。

一つ目は、「そうすあじへ」です。この中で、特にがんばりたいことは、スリッパならべです。四月ころは、スリッパがあまりならんでいませんでした。今は、スリッパがきれいにならぶようになつてきました。きれいにそろえてあるスリッパを見て、心が気持ちよくなりました。これからは、私もスリッパをならべて、人をいい気持ちにさせたいと思います。

二つ目は、時間を守る事です。朝学校にくる時間がおくれたり、休み時間一分前着席ができなかったりしたときがありました。これからは、時計を見て行動したいと思います。

私は、二学期、スリッパならべと、時間を守る事ができるようにならなりたいなと思います。

※裏面に、指導教諭作成の「みんなちがってみんないい」を載せています。ご覧ください。

～みんなちがって みんないい (その4)～

1学期が終わり、子ども達が楽しみにしている夏休みが始まります。親子で過ごす時間が増える夏休みは、保護者のみなさんにとって少々頭の痛い夏休みかも知れません。そこで今回は、昨年まで9月にお話ししていた「チャイルド・マルトリートメント (Child Maltreatment)」についてお話しさせていただきます。

みなさん「チャイルド・マルトリートメント」という言葉を聞かれたことはありますか？

「マルトリートメント」を日本語で説明すると「避けるべき子育て」ということを意味します。今から40年ほど前、アメリカを中心に欧米で広まった表現で、子育てや教育における「不適切な養育」を避けるべく生まれた考え方です。

子どもの養育と発達の関係に詳しく、マルトリートメントについていくつもの著書を執筆されている、福井大学「子どものこころの発達研究センター」教授の友田明美先生は、WHOのチャイルド・マルトリートメントの定義は「身体、精神、性的虐待そしてネグレクトを含む児童虐待をより広く捉えた、大人から子どもへの発達を阻害する行為全般を含めた不適切な養育」とおっしゃっています。

具体的なマルトリートメントとはどういったものなのか、少しご紹介します。

- ① 「躰(しつけ)」の範囲という認識で、暴言や汚言を子どもに浴びせる。
 - ② 叩く、蹴る、無視する。
 - ③ 十分な食事を与えない、お風呂に入れない、洗濯や掃除をしない状況で育てる。
- これらは、とても分かりやすい例ですが、次はどうでしょう。
- ④ 子どもの前で夫婦喧嘩をする。
 - ⑤ 子どもに妻または夫、祖父母の悪口を言う。
 - ⑥ 子どもの話を聞かない。子どもの話をさえぎり、親だけが話をする。
 - ⑦ 親が決めた教育方針、進路、職業などを、子どもの意思を無視して押し付ける。
 - ⑧ 親の気分次第で子どものスケジュールを振り回す。
 - ⑨ 子どもが遊んでほしいのに、親がスマホばかりをいじっている。親が自分の時間を作るために子どもにスマホやゲームを渡し、無制限に使わせる。

- ⑩ 子どもに門限が無い。親が居ない間、子どもが何をしているのか全く知らない。

思い当たることはありませんでしたか？

精神保健福祉士の矢澤敬子さんは前述のような事例もマルトリートメントであり、親や教師など子どもに関わる大人が、気付かないうちに子どもを傷つけていることがあると危惧されています。

では、マルトリートメントに気を付けなければいけないのは何故なのでしょう。

友田先生はマルトリートメントによって子どもの脳が損傷する危険性について警鐘を鳴らされています。これは医学的に証明されていて、虐待を受けた児童の脳のMRI画像からもはっきりと分かります。脳に損傷を受けた子どもたちは、「学習意欲の低下や引きこもり症状の発症」「大人になっても何かのきっかけで辛いことを思い出すPTSD (心的外傷後ストレス障害)の発症」「うつ病・不安症・摂食障害・睡眠障害・自殺企図などの精神疾患」を抱える確率が高いのです。

また、マルトリートメントの頻度が多いと、愛着形成に問題が起きるため、落ち着きが無くなったり、友だちに暴言や暴力を振るったりするようになりますし、大人になって自分が同じことを繰り返す親になってしまいます。

文教大学教授で小児科医の成田奈緒子先生は、睡眠と脳の成長の関係についても注意を払う必要があることを指摘されています。

適正な脳の発育の為には、就学前までは1日10時間、小学6年生でも9時間30分の睡眠時間が必要です。

ゲームや動画を与え過ぎて睡眠時間を十分に与えないこと、親が睡眠時間を管理しないこともマルトリートメントになりますし、何よりも子どもの発達を大きく阻害します。

子どもに正しい倫理観や価値観を教える“躰”は大切です。しかし「強者」である大人が、「弱者」である子どもに怖い思いをさせることは、想像よりも強い衝撃を与えることを忘れてはいけません。

